

「資料から探る改元の歴史」

中国及び日本の元号の始まり

元号は、東アジアで使用された特定の年代に付けられる名称で、年号と呼ばれることもあります。元号が最初に使用されたのは中国ですが、元号が誕生する以前は、「〇〇帝 3 年」といった皇帝が即位した年を元年とする「在位紀年法」が用いられていました。前漢が最盛期を迎えた第 7 代武帝の治世下(紀元前 141 年 ~ 紀元前 87 年)で初めて元号が使用されました。武帝の治世は約半世紀続きましたが、**建元**・**元光**・**元朔**・**元狩**・**元鼎**・**元封**・**太初**・**天漢**・**太始**・**征和**・**後元**と目まぐるしく改元が行われています。実際に元号が誕生したのは元鼎の頃といわれ、それ以前の元号は、さかのぼってその時々^{けんげん}の出来事にちなんで付けられました。中国では、これ以降、元号は清王朝が滅亡するまで使用されました。また、中国を宗主国と仰いでいた朝鮮や渤海・琉球などの国々では、独自に元号を持つことは原則として許されず、中国の元号を用いることになりました。

日本における元号の始まりは、「大化」とされています。645 年 6 月 12 日に宮中で中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿を暗殺する「乙巳の変」が起きました。同月 14 日に皇極天皇は弟の孝徳天皇に譲位し、同月 19 日に建元が行われました。残念ながら、「大化」という元号が付けられた由来ははっきりとはしていません。ただし、『書経』にある「肆予大化誘我友邦君(ゆえにわれ大きに我が友邦の君を化誘す)」を典拠としているのではないかという説があります。650 年 2 月 15 日、孝徳天皇は元号を「白雉」と改めました。穴戸国(長門国の古称)の国司からから白い雉が献上されたからといわれています。孝徳天皇が没すると、理由は不明ですが元号はしばらく用いられなくなりました。その後、天武天皇の最晩年である 686 年に「朱鳥」という元号が一時期用いられましたが、再び元号の使用は途絶えました。

元号が復活したのは、文武天皇が即位してから 5 年目の 701 年 3 月 21 日です。「大宝」と名付けられた元号は、対馬から金が献上されたことに由来するといわれています。それまで断続的に用いられてきた日本の元号は、大宝以後は今日まで途絶えることなく続いています。

日本の元号一覧

時代	元 号	時代	元 号
飛鳥時代	大化 645~	平 安 時 代	応和 961~
	白雉 650~		康保 964~
	朱鳥 686~		安和 968~
	大宝 701~		天禄 970~
奈良時代	慶雲 704~		天延 973~
	和銅 708~		貞元 976~
	靈龜 715~		天元 978~
	養老 717~		永観 983~
	神龜 724~		寛和 985~
	天平 729~		永延 987~
	天平感宝 749~		永祚 989~
	天平勝宝 749~		正暦 990~
	天平宝字 757~		長徳 995~
	天平神護 765~		長保 999~
神護景雲 767~	寛弘 1004~		
宝龜 770~	長和 1012~		
天応 781~	寛仁 1017~		
平安時代	延暦 782~		治安 1021~
	大同 806~		万寿 1024~
	弘仁 810~		長元 1028~
	天長 824~	長暦 1037~	
	承和 834~	長久 1040~	
	嘉祥 848~	寛徳 1044~	
	仁寿 851~	永承 1046~	
	斉衡 854~	天喜 1053~	
	天安 857~	康平 1058~	
	貞観 859~	治暦 1065~	
元慶 877~	延久 1069~		
仁和 885~	承保 1074~		
寛平 889~	承暦 1077~		
昌泰 898~	永保 1081~		
延喜 901~	応徳 1084~		
延長 923~	寛治 1087~		
承平 931~	嘉保 1094~		
天慶 938~	永長 1096~		
天曆 947~	承徳 1097~		
天徳 957~	康和 1099~		

日本の元号の特徴

「大化」の建元以来、南北朝時代の両朝の元号を含めて、「平成」までに247の元号が誕生しました。その多くは、縁起のよい漢字2字の組み合わせですが、聖武天皇の最晩年から孝謙天皇(後に再び即位して称徳天皇)の時代には、「天平感宝」「天平勝宝」「天平宝字」「天平神護」「神護景雲」と5回連続で4文字の元号が用いられました。

「平成」の出典が、『史記』等の「内平外成(内平かに外成る)」及び『書経』の「地平天成(地平かに天成る)」であることはよく知られています。このように日本の元号の多くは、四書(大学・中庸・論語・孟子)五経(易経・書経・詩経・礼記・春秋)などの中国の古典から選ばれてきました。

日本の元号に採用された回数が多い漢字

順位	回数	採用された漢字	順位	回数	採用された漢字
第1位	29回	永 ※「元号一覧」参照	第6位	19回	長 正 和 文
第2位	27回	天 元	第10位	18回	安
第4位	21回	治	第11位	16回	延 暦
第5位	20回	応	第13位	15回	徳 寛 保

上の表は、日本の元号に採用された漢字の中から、使用頻度の高い漢字を抽出したものです。実は、これまでに日本の元号に採用された漢字の総数は、72字とあまり多くありません。その分、繰り返し採用された漢字が多いことが分かります。

改元が行われた理由

改元は、その目的から次の4つに分類することができます。

1つ目は、代始改元(だいはいじめ)で、天皇の即位に伴って行われるものです。

2つ目は、祥瑞改元(しょうずい)で、吉兆を天意の現れと考えて行うものです。先述した「白雉」「大宝」などがこれに当たります。ただし、祥瑞改元は平安時代の前半で途絶えました。

3つ目は、災異改元で、天変地異などの凶兆をもって行うものです。幕末の「安政」から「万延」への改元などが該当します。安政から万延の改元の詔(みことり)には、米・蘭・露・英・仏5か国との条約締結による外国人の来日(安政5年)、江戸城本丸御殿の焼失(安政6年)、コレラの流行(安政5~7年)が、改元の理由として記されています。

4つ目は、革命改元で、干支の辛酉(えと しんゆう/かのととり)と甲子(かつし/きのえね)の年に行うものです。両年には大きな変革が起きるものと考えられ、平安時代に文書博士であった三善清行(きよゆき/きよつら)の建言により、「昌泰」から「延喜」(901年、辛酉)へ改元が行われたのを端緒とし、革命改元は幕末まで行われました。

時代	元号	時代	元号
平安時代	長治 1104~	鎌倉時代	安貞 1227~
	嘉承 1106~		寛喜 1229~
	天仁 1108~		貞永 1232~
	天永 1110~		天福 1233~
	永久 1113~		文暦 1234~
	元永 1118~		嘉禎 1235~
	保安 1120~		暦仁 1238~
	天治 1124~		延応 1239~
	大治 1126~		仁治 1240~
	天承 1131~		寛元 1243~
	長承 1132~		宝治 1247~
	保延 1135~		建長 1249~
	永治 1141~		康元 1256~
	康治 1142~		正嘉 1257~
	天養 1144~		正元 1259~
	久安 1145~		文応 1260~
	仁平 1151~		弘長 1261~
	久寿 1154~		文永 1264~
	保元 1156~		建治 1275~
	平治 1159~		弘安 1278~
永暦 1160~	正応 1288~		
応保 1161~	永仁 1293~		
長寛 1163~	正安 1299~		
永万 1165~	乾元 1302~		
仁安 1166~	嘉元 1303~		
嘉応 1169~	徳治 1306~		
承安 1171~	延慶 1308~		
安元 1175~	応長 1311~		
治承 1177~	正和 1312~		
養和 1181~	文保 1317~		
寿永 1182~	元応 1319~		
元暦 1184~	元亨 1321~		
鎌倉時代	文治 1185~	南北朝時代	正中 1324~
	建久 1190~		嘉禎 1326~
	正治 1199~		元徳 1329~
	建仁 1201~		南元弘 1331~
	元久 1204~		北正慶 1332~
	建永 1206~		建武 1334~
	承元 1207~		南延元 1336~
	建暦 1211~		北暦応 1338~
	建保 1213~		南興国 1340~
	承久 1219~		北康永 1342~
	貞応 1222~		北貞和 1345~
	元仁 1224~		南正平 1346~
	嘉禄 1225~		北観応 1350~

庶民にとって使いづらかった元号

大化元年(645)から慶応4年(1868)までの1,224年間に限定すると、243の元号が使われています。ただし、南北朝時代には北朝が16、南朝が9つの元号を使っているため、これを勘案すると約230の元号が使用されたこととなります。単純計算すると約5年間に1回の割合で改元が行われていたこととなります。なお、この間、最も期間が長かったのは「応永」(1394.7.5~1428.4.27)の約34年間、最も期間が短かったのは「天平感宝」(749.4.14~同年7.2)の約3か月間です(「朱鳥」も2か月程度だったとされるが、終期が判然としないため除外した)。短期間でめまぐるしく改められる元号は、庶民にとって実生活では使いづらいものだったと考えられます。実際、江戸時代の古文書には十干(甲乙丙丁戊己庚辛壬癸)と十二支(子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥)を組み合わせた干支あるいは十二支だけが記されたものが少なくありません。また、元号が記されたものでも「弘化四丁未年」「文化九申年」など、干支や十二支が併記された古文書が大半です。

近代以降の「一世一元の制」

明治天皇の先帝の孝明天皇は、弘化3年(1846)2月13日に践祚(天皇の位を継承)し、慶応2年(1866)12月25日に崩御するまでの在位21年間で、「弘化」→「嘉永」(代始改元)→「安政」(災異改元)→「万延」(災異改元)→「文久」(革命改元)→「元治」(革命改元)→「慶応」(災異改元)と6度改元を行いました。

明治天皇は慶応3年1月9日に践祚し(当時14歳)、慶応4年1月15日に元服の儀、8月27日の即位大礼を経て、9月8日に「慶応」から「明治」への改元を行いました。この時、明治政府は「**是まで吉凶の象兆(様子やきざし)に随い(しばしば)屢改号これあり候えども、今より御一代一号に定められ候**」と布告しています。その後、明治22年(1889)に制定された旧皇室典範第12条に「**踐祚ノ後元号ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ従フ**」と「一世一元の制」が明記され、その法的根拠となりました。また、明治天皇から、崩御した天皇に元号が追号として用いられることが慣例化しました。

第二次世界大戦後の昭和22年(1947)5月3日に日本国憲法と同時に施行された現行の皇室典範では、元号に関わる条項が削除されました。したがって、昭和22年以後、「昭和」という元号は慣例的に使用される状態になっていました。この状況を改善するため、国会で元号法の審議が行われ、昭和54年6月12日に公布・即日施行されました。なお、元号法は、「**1 元号は、政令で定める。2 元号は、皇位の継承があつた場合に限り改める。**」と規定しています。

時代	元号	時代	元号
南北朝時代	北 文和 1352~	江戸時代	慶長 1596~
	北 延文 1356~		元和 1615~
	北 康安 1361~		寛永 1624~
	北 貞治 1362~		正保 1644~
	北 応安 1368~		慶安 1648~
	南 建徳 1370~		承応 1652~
	南 文中 1372~		明暦 1655~
	北 永和 1375~		万治 1658~
	南 天授 1375~		寛文 1661~
	北 康暦 1379~		延宝 1673~
	南 弘和 1381~		天和 1681~
	北 永徳 1381~		貞享 1684~
	北 至徳 1384~		元禄 1688~
	南 元中 1384~		宝永 1704~
室町時代	北 嘉慶 1387~	正徳 1711~	
	北 康応 1389~	享保 1716~	
	北 明徳 1390~	元文 1736~	
	応永 1394~	寛保 1741~	
	正長 1428~	延享 1744~	
	永享 1429~	寛延 1748~	
	嘉吉 1441~	宝暦 1751~	
	文安 1444~	明和 1764~	
	宝徳 1449~	安永 1772~	
	享徳 1452~	天明 1781~	
	康正 1455~	寛政 1789~	
	長禄 1457~	享和 1801~	
	寛正 1460~	文化 1804~	
	文正 1466~	文政 1818~	
応仁 1467~	天保 1830~		
文明 1469~	弘化 1844~		
長享 1487~	嘉永 1848~		
延徳 1489~	安政 1854~		
明応 1492~	万延 1860~		
文亀 1501~	文久 1861~		
永正 1504~	元治 1864~		
大永 1521~	慶応 1865~		
(戦国時代)	享禄 1528~	明治 (元~45) 1868.9.8~1912.7.29	
	天文 1532~		
	弘治 1555~	大正 (元~15) 1912.7.30~1926.12.24	
	永禄 1558~		
	元亀 1570~	昭和 (元~64) 1926.12.25~1989.1.7	
桃安山土	天正 1573~	平成 (元~31) 1989.1.8~2019.4.30	
	文禄 1592~		

○時代区分は、『角川日本史辞典』掲載の「時代区分表」及び「年号索引」に準拠した。